

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600228		
法人名	医療法人 井上内科病院		
事業所名	グループホーム萩の家		
所在地	三重県津市久居井戸山町751番地1		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町提出日	平成30年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kihon=true&JigvoNoCd=2470600228-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 29 年 12 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人母体の医師が主治医であり、毎週1回の診察で健康管理がされています。日常生活は、リハビリテーションを含んだレクリエーションにより、皆さん生き生きと楽しんでいます。また、ボランティアの方々に、月2～3回訪問してもらい、歌、踊りの行事に参加できる事を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設18年目を迎えた事業所は、周辺に母体の医療法人が運営する様々な介護関連施設が併設されており、連携を図りながら地域の医療と介護を支えている。管理者・職員は入居者が地域や学校行事などに参加しながら、地域住民との交流を深め、地域とつながりながら生活していける支援に努めている。母体病院・医師の日々の健康管理や緊急時の24時間対応が入居者や家族等の安心と信頼に繋がっている。管理者・職員は笑顔と思いやりの心を大切に、利用者が高齢になっても、毎日楽しく生きがいを持って生活できるような支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、他人のことも「思いやる」ことに重点をおいて理念としている。	開設時に入居者と職員が話し合っで作った「思いやる」を理念に掲げ共有している。日常の支援において立ち止まり、確認しながら実践に努めている。理念とともに「生きがいの持てる生活を送る」を今年の運営目標に掲げ支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩途中「野菜がとれた」と地域の方々がいっつも立ち寄って頂けるグループホームとなっている。井戸山公民館で、地域の方々の行事「茶話会」に参加した。	自治会に加入しており、地域の行事や奉仕活動に積極的に参加している。地域住民や中学生が気軽に立ち寄ってくれたり、新鮮な野菜を届けてくれる。公民館で開催された「茶話会」に入居者全員が参加したり、事業所の夏祭りには大勢の地域住民の参加があった。中学校との交流、ボランティアの受入れなど日々交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は地域との交流は折り紙でクリスマスリースを作製した。近隣の中学校の生徒、地域の方々、ご家族の方々と交流の場として努めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、行政の方、ご家族の方等のご協力を得て、サービスの向上に繋がる様にアドバイスを頂き、年6回開催し運営に活かしている。	家族代表、自治会長、民生委員、地域代表、市介護課職員などの出席により、年6回定期的に開催されている。家族会、地域交流と同時開催するなど工夫しながら会議運営を行っており、出席者からの意見をサービス向上に活かしている。民生委員より衛生面の指導を受けて実践に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、事業所の問題等を一緒に考え、改善に向けて協力して頂いている。	運営推進会議へは毎回出席があり、介護保険の更新手続き、制度の相談など担当者と連携が図られている。また、ヒヤリハット事例の相談をして助言を頂いたり、申請に必要な書類や案内パンフレットを届けてくれるなど、情報を共有しながら良好な協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で、拘束となる行為について勉強会をして、身体的拘束はしないケアに取り組んでいる。	法人の身体拘束委員会のマニュアルを用い、年1回研修会を開催し利用者一人ひとりのケアについて振り返りを行っている。全職員が身体拘束廃止に対する意識・理解を持ち、日々の支援の中でスピーチロックを含め身体拘束に気づいたら、管理者に報告し話し合い改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待してはならない事を、よく理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度を利用する方は入居されていないが、成年後見制度について勉強している。他施設の職員からアドバイスを求められ、参考になればと資料を手渡した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は契約時十分な説明を行い、理解納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは会話を持つ事で、意見、不満、苦情等早急に把握し、解決できる様に心掛けている。また、月1回以上の面会があり、必ず利用者の様子をお知らせしている。	家族会が設立されており代表者が運営推進会議に出席している。ほとんどの家族が月1回以上の面会に訪れており、直接、利用者の日常の様子を伝え意見や要望を聞いている。また、行事の様子と報告を兼ねた、たよりを発行し郵送している。家族の生活状況に応じた電話連絡の対応に、家族から「安心している」との評価がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を持ち、運営に反映している。	代表者・管理者は、毎月の連絡会議で職員の意見や提案を聞き運営やサービス向上に活かしている。会議以外にも、意見や提案の把握に努め、その都度改善策を検討し、職員個々の満足度をあげるように努めている。慰安旅行や防災訓練時の吸引体験は職員の意見を取り入れて実施された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各行事内容を把握して、必要である資金、人材等を支援してもらっており、管理者や職員が働きやすい職場環境に、努めてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意欲的に研修に参加し、職員の育成に努めている。今年は新人研修のオリエンテーションを行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等の機会に、他のグループホームとの交流を図り、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当ホームの見学面談の機会に、事前に不安な事、求めている事等を聞き取り、本人自身が十分楽しめる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも、当ホームの見学時や面談時に、困っている事、不安な事、求めている事等十分に聞ける機会をつくり、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人ご家族にとって、今どのような支援が必要なのかを見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族の皆さんと共に、本人がより良い生活を送れる様に、協力関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の皆さんと共に、より良い関係が作られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅サービスである事を念頭に置き、ご家族、お友達、ご親戚の方々が、自由に出入りして頂ける様に支援している。	家族・親戚・友人が、自由に来て頂けるような工夫や知人に年賀状を書く手伝いなど、今までの関係が途切れないような支援に努めている。家族の協力を得ながら美容院や買い物など、本人の希望で馴染みの場所に出掛けている。入居前からの知人が、庭に咲いている花の写真を持って訪問してくれ喜んでいる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	6人という少人数であり、家族同士の様な関わりを感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族の訪問があったり、連絡をしたりされたりして、付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から、ひとり一人の思いや、希望等を把握して、より良い生活が送れる様に努力している。	担当職員が日々の生活の様子や会話から本人の思いや希望を把握、介護経過記録に記入し職員間で情報を共有しながら、より良い支援に繋げている。また介護計画の見直しにも活かしている。利用者の体力や身体状況に配慮し居室で休んでいただく時間を作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自のフェイスシートを作成し、これまでの生活歴を知る上で大切な資料と考え、ご家族の方々にも協力をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の生活のリズムを知る上で、その人にあった支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎に、本人、ご家族、必要な関係者と話し合いを持ち、行動計画を作成している。支援内容に基づく目標、実践内容、評価が一目で解るシートを検討し、介護計画を作成している。	入居時にフェイスシート等の情報からケアマネジャーがアセスメントを行い、介護計画を作成している。毎月の連絡会議で担当者の記録を基にモニタリングを実施、全職員で検討している。3ヶ月ごとに本人・家族・関係者の意見を反映して介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受持ち制により、気付いた点をチェックして、全員でモニタリングを行っている。また必要に応じて、新しい介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望に応じて、対応している。かかりつけ医院への受診、買い物等の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、文化、教育機関等の協力を得て、支援に繋げている。今年は井戸山地区の行事に参加した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人井上内科病院であり、安心で適切な医療が受けられる。	利用者全員が母体の医療機関を受診しており、週1回往診が行われている。耳鼻科・眼科など専門科受診は原則家族が対応、歯科は訪問診療を受けている。夜間・緊急時対応は協力医と24時間体制の連携が図られており、健康管理と医療面の充実は利用者・家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師を配置しており、健康管理と医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人ご家族にとって、今どのような支援が必要なのかを見極め支援している。入院時、医師や管理者から十分に説明して、安心して医療を受けられるように支援している。また医療機関との連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と終末期のあり方について話し合いを持ち、要望に応じて対応をしている。	終末期の対応について、契約時に利用者・家族と話し合いを持ち意向を聞き誓約書を交わしている。今年は1名の看取り支援を行った。家族・医師・職員など関係者と連携し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	独自のマニュアルを作成し、急変時や事故発生時にスムーズな対応ができる様に、話し合いを重ねている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、事業所独自で夜間避難訓練も含め3回実施した。また、法人全体での避難訓練(浸水被害あり、避難要請発令)避難応援を受ける訓練を意欲的に実施した。	避難訓練は事業所独自の訓練3回、法人全体の訓練2回実施している。夜間、職員召集訓練や救命講習会を行い全職員が災害時対応を共有している。非常食・水・防災頭巾などを備蓄している。また事業所が津市指定避難所になっており、地域の訓練にも参加し協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	男女共同生活の場である為、排泄や入浴に関するケアには、十分な配慮を心掛けている。	呼び掛けは利用者の希望で変えており、排泄や入浴の誘導や介助は、利用者の尊厳や羞恥心に配慮して行っている。入浴の順番や役割は利用者一人ひとりの時代背景や生活環境に合わせて決めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の力に合わせた自己決定に寄り添って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人の気持ちを大切にして、個別ケアの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室から出る都度、義歯の装着、髪の毛の整容を支援し、外出時の着替え等、希望に添っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人の気持ちを把握し、希望も取り入れながら、献立を決めている。後片付けは能力に応じて職員と共に行っている。	メニューは決めずにその日の食材をみて職員が交代で調理している。新鮮な食材を使った食事は利用者から好評でいつも完食である。後片付けは利用者が一緒に行っている。食器はそれぞれ好みのものを持ち込み使用している。四季折々の行事食・誕生日会・外食などを取り入れ食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事の摂取量を把握し、能力に応じて食事介助の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを本人と一緒にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜通して、タイミングを見計らってトイレ誘導している。	入居時に全員に布パンツを使用してもらい、自立にむけた支援を行い、本人が苦痛に感じられたら家族と相談して、リハビリパンツとパット使用に変更している。昼夜通して、タイミングを見計らってトイレ誘導を行いトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操で身体を動かしたり、水分を十分摂る様に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回となっているも、ひとり一人の入浴の希望、タイミングに合わせて対応している。	週3回、1日おきに入浴支援を行っている。体調の悪い時は足浴や清拭、入浴のない日はホットタオルで顔や身体を拭くなど、利用者の清潔に配慮している。柚子や菖蒲を入れたり、好みのシャンプーを使用して入浴を楽しむ支援を行っている。入浴時に普段聞けないような話を聞いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動に重点を置き、生活リズムを整え、ゆっくり休んで頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬処方に用法が記入されており、職員は理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、様々なレクリエーション活動を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の活動に参加、散歩等戸外に出る支援をしている。母体である病院が休みの日は、駐車場を利用して日光浴をしている。	日常的には利用者の希望にそって事業所周辺を散歩している。母体の病院の休診日には駐車場日光浴を楽しんでいる。家族の協力で外出したり、地域の行事、中学校の文化祭や運動会に積極的に参加し普段行けない場所に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に応じて、お金の管理を任せているが、基本的にはご家族の考えを優先している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使って頂き、葉書や切手の用意、手紙の投函支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南に面した居室には太陽が十分入り、居心地の良い共用空間となっている。	玄関や食堂兼リビングなど、共有スペースは家庭的な雰囲気を大切にして利用者がくつろげる工夫がされている。掃除が行き届き清潔感があり、適切な室温・湿度管理を行いながら健康に配慮している。一緒に生活している愛犬ハギの愛らしさが利用者・職員の癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子や長椅子を置いて、利用者同士でゆっくりと会話できる空間を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具等を置き、本人が居心地よく暮らせる様に、工夫している。	全居室南向きで日当たりがよく、窓から四季折々の花見ができる。大きなクローゼットが設置されており、収納スペースが多く、各部屋がすっきりと整理整頓されている。家族の写真や使い慣れた日用品が持込まれ、居心地良く過ごせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の持っている力を十分に発揮し、自立した生活が営める様に、工夫している。		